

板橋区基本構想審議会(第5回) 意見メモ一覧

No.	分野	意見
1	文化・スポーツ	○ウェルビーイングの視点からの文化・スポーツ政策の再整理 区民ひとりひとりのウェルビーイングの向上とそれを可能にする地域社会のあり方を出発点として、整理することが重要。区の役割は、多様な主体に対して、衡平な参加機会を担保し、交流を促進することを通じて、結果として個人の文化的充足度や共同体への帰属意識の向上、地域の社会的連帯の向上を企図すること。 あるべき姿“まち”の視点「スポーツや芸術に触れることができるにぎわいにあふれたまち」(原案)は、「すべてのひとに文化活動やスポーツへの参加機会が確保されたひらかれたまち」としてはどうか。施策のあり方に「誰もが様々な形でスポーツを楽しむことができる環境整備」「スポーツ・芸術に触れる機会拡充による地域のにぎわい創出・担い手の育成」を据えることについては違和感がない。 ○伝統的文化と新興の文化・サブカルチャーへのバランスの良い支援 伝統的文化の継承や活性化だけではなく、e-sports などの新興の文化・サブカルチャー的なものについてもバランスよく涵養・支援する施策が、区の将来的な豊かさにつながると思う。 ○ユニバーサルスポーツ:多様な主体の参加機会の創出・確保 障がい者と健常者という二分法にとらわれることなく、各種スポーツの実践において合理的配慮が必要となる方々の参加が容易になる振興策・支援策を検討する必要がある。さらに、多様な主体の参加という視点からは、高齢者や外国籍区民及び外国にルーツを持つ日本籍区民による施設利用や大会等への参加が容易になる施策を追求することも重要だと考える。 ○パリ五輪で日本はフェンシングでのメダル獲得数が世界一となった。メダルを獲得した江村美咲さんは板橋区在住であり、板橋区スポーツ大使でもある。区のブランド力・スポーツを盛り上げるのに、最適なタイミングであり、フェンシングのまち・沼津のようにフェンシングのまちとしてブランディングすることでイメージアップを図ることができる。また、味の素ナショナルトレーニングセンターが近いことも活かし、このムーブメントを途絶えさせず、ロス五輪を踏まえ、将来のフェンシング選手育成にも区としてもっと力を注ぐべく検討してはどうか。 ○オリンピック選手や候補選手が練習している味の素ナショナルトレーニングセンターが近いこともあり、区をスポーツで盛り上げたいという近隣の企業が増えている。そういった企業と連携し、地域貢献・板橋のスポーツ発展のため、板橋ブランディング強化を図ってはどうか。

No.	分野	意見
2	産業	○サステナビリティとウェルビーイングの向上に向けた統合的な産業政策の推進 脱炭素社会への移行、循環型社会への移行、自然再興(Nature Positive)といった視点を共有し、サステナビリティ(持続可能性)とウェルビーイングの向上に向けた新規的な方向性を打ち出していく必要があると考える。「光学の板橋」、「ものづくりの板橋」などの強みを生かしつつ、各事業者の活動が、いち早く脱炭素型、循環型、自然再興型に移行していくことは、今後の国際・国内バリューチェーンの中での比較優位を形成することにつながる。 区としては、移行へのサポートをする方向性と支援施策を、環境政策としてではなく産業振興政策の優先課題として、積極的に打ち出していくことが重要。新たなスタートアップの誘致を進める施策も有用である。「SDGs志向型ものづくりの板橋」といった新たなブランド化が必要か。 ○都市農業の維持・保全の一層の推進 都市農業の「地産地消機能」、「交流創出機能」、「防災機能」、「景観創出機能」、「環境保全機能」、「食育・教育機能」など多面的機能に鑑み、区内の生産緑地の維持・保全のための方策を強く打ち出していく必要がある。農業まつりや区民農園の活用についてアイデアを募り、工夫していくこと。都市農業の持つ多面的機能への気づきを得る機会の創出、参加機会の創出、地域の連帯を通じたウェルビーイングの向上を目指す試みを実施する。 (例) ・ソーラー・シェアリング：区民農園の一部に営農型太陽光発電システムを導入することにより、食とエネルギーについての理解を深める仕組みを創出する。 ・エディブル・フォレスト／エディブル・ガーデン：区民農園や区内農地の一部、ビルの屋上などを利用した、エディブル・フォレスト／エディブル・ガーデンを運営し、食育と農地の持つ生態系サービスについての理解を深める仕組みを創出する。 ・半径10 kmの食材で作ったローカルグルメ・コンペ：板橋区内産農産物を中心素材として、板橋区から半径10kmの素材のみを使ったローカルグルメを競い合うイベントを、半年または四半期ごとに開催する。
		○中小企業が抱える問題 (1)騒音問題 製造業では金属の加工音などがどうしても出てしまう。環境基準内でも住民からは苦情が入る。対策となる防音設備の導入には、かなりのコストがかかるので、補助してもらいたい。 (2)悪臭問題 発生源でないにも関わらず苦情を言われることがあるため、対策を行政に考えてほしい。 (3)外観美化 古い工場等は周囲の環境を悪くする原因にもなる。工場周辺を美化するための外壁整備や植栽に対して補助していただきたい。 (4)工業地区の工場保護の強化 工業専用地域や準工業地域では工場の権利を優先してもらいたい。一般住宅の建設を可能な限り制限し、住民には住居用の地域でないことを理解していただきたい。工場と住宅を接近させないことが住み良い街にすることになると思う。 ○準工業地域に高層マンション等が建つことで、事業継続が不可能になってしまう企業もある。行政が常に住民のみを優先すると、区内産業の活性化は困難であるため、「ものづくりのまち、板橋」として、事業の継続に不安を抱えた企業の声をしっかり聞き、産業集積地の舟渡・新河岸地区、その他の坂下・志村・清水・前野地区等の準工業地域をどのように守り、維持継続するのかを明記する必要がある。